

健康まつり開催される

六月二十七日(水)午前九時より午後四時まで、都留市文化会館四階大ホールと三階研修室において健康まつりが開催されました。

二十五日より三日間文化会館屋上よりアドバルーンをあげて、健康都留市の啓発を行い、健康まつりの高揚をはかりました。



国保被保険者の表彰家庭

文標語の入選者の表彰が行なわれた。式終了後は三階研修室において健康相談を行い、午後には一時的より成人病の現状について保健婦の説明の後、大阪府立成人病センター「第一検診部長の小町喜男先生の「高血圧について」の講演が二時間にわたり行なわれ、出席者に大きな感銘を与えました。

そのあと映画「無症状の病」、「うすい血」を上映し、また大ホールと三階ロビーにおいて健康展「高血圧がんその他のパネルの展示」を行い、盛会のうちに健康まつりを終りました。

国保被保険者の表彰家庭及び公募作品の入選者の氏名はつぎのとおりです。

- 六人世帯一年間無受診
 - 境一八〇 米山蔵司
 - 戸沢二五六 志村忠三
- 五人世帯一年間無受診
 - 中央三丁目 奈良吉夫
 - 鹿留一三三〇 渡辺 強
- 四人世帯一〜二年無受診
 - 田原一丁目 藤江開次郎
 - 鹿留四三三一一 三枝 旭
 - 下谷三丁目 柴山竹次郎
 - 戸沢五五八 小林 章
 - 三人世帯二〜三年無受診
 - 十日市場九〇〇 老沼正平
 - 鹿留四五一 相川幸雄
 - 二人世帯三〜四年無受診
 - 下谷一丁目 伏見保男
 - 田野倉一八四三 長田敏夫

- つる二丁目 駒田照夫
- 大野二八二二 成田喜代作
- 鹿留四六六 三枝敏夫
- 四日市場四〇九 渡辺正敏
- 下谷三二一三 庄司一郎
- 一人世帯五〜八年無受診
 - 中央三丁目 堀口ひろ
 - 古川渡八七五 日向政尾
 - 朝日馬場五七〇 野武美か
 - 朝日曾雌三二四 日向竹治
 - 上谷一丁目 谷内たけ
 - 夏狩九三四一七 小林たか子
 - 田野倉六九四 鈴木ヒロ子
 - 田野倉六一二 杉本信一
 - 上谷五丁目 井出周作
 - つる五丁目 遠藤登和子
 - 夏狩一七二四 志村武則
 - 夏狩八六七 三枝マサ子
 - 夏狩一〇四七 土屋美子
 - 上谷五丁目 三浦 甲
 - 十日市場一〇八〇 杉田澄子
- 応募作品入選者
 - 標語
 - 都倉清江 永 友文 (以上禾二小五年)
 - 星野由紀子 谷内輝代 中野政和 (以上都一中一年)
 - 原 田晴美 (都一中二年)
 - 作文
 - 鈴木君子、佐藤朱美 (以上禾二小四年)
 - 小林恵美 (禾二小五年)
 - 下川美佐子、小林純子、中野洋子、綿屋さゆり、田幡義人、長沼真吾、竹松優香、渡辺初美、荒川詠美子、原田晴美 (以上都一中二年)
 - 田中美和、小松千代実 (以上都一中一年)



近世 (9)

この新しい原則によって土地の生産力の調査ができ、石高と登録人がきめられ年貢や課役を大きくふやすための目的をたしかにする政策であり、他方では農民たちの隠田(かくし田、登録しない田)まであきらかに登録してうごかないものとするに役だて、農民の負担が加重となり各地で検地のおこなわれることについて、支配者との間に抗争がおきていた。

「年貢さえ納めれば百姓ほどらくなものはない」と慶安御触書はいう。秀吉もこれと同じことをいったと伝えられているが農民たちにとっては血と汗のきびしいものであったにちがいない。これからの戦国時代の軍役にかりだされ食糧のめしあげにもまして加重な支配者の手段に生活は苦しくなるばかりであった。

甲斐国の検地は徳川家康の領有の時に伊奈熊蔵が奉行となつて、おこなはれたのが天正十七年(一五八九年)でこの検地を「熊蔵繩」とも「伊熊繩」ともいわれた。河内、郡内の二領はそれぞれの地域においておこなわれた。

この翌年に家康は関東へ移封となり甲斐国は豊臣領となった。一五九四(文祿三)年に入部した豊臣の五奉行の一人であった浅野長政(弾正少弼)によって一國の検地がおこなわれ、これを「弾正繩」といわれたが郡内は長政の家老の浅野左衛門佐氏重が領して同年のうちに検地がおこなわれ、村里、八一、高一万四一八石余といわれた。

こうして土地をはかつて反別や田畑の等級がきめられると、石盛というのがあり、石盛とは斗代(公定収獲高)ともいわれ支配者にとってこれが唯一の目的であり、年貢や課役の基本となるからであった。そこで田畑の等級がきめられると、田Ⅱ上田・中田・下田・下々田・畑Ⅱ上畑・中畑・下畑・下々畑までとした。上田に格付された田の三、四方所の坪刈りをして、一坪に平均して穀が一升とれるとすれば一反で三石となり、これを五分ずりとして米一石五斗が計算され、これを石盛一五と称した。麻畑、桑畑などにまでそれぞれ石盛がおこなわれた。こうして貢租の算定の基本ができると一反あたりの石盛の数値を集計した反別にかきあわせると、その村の総高、村高があらかきされることになる。この慶長検地は全国にわたるものであったから後々の検地の見本となり長い間うけつがれてきた。

羽田富士男